

"DESIGNER'S STOCK"

(わかりやすく言うと)

高機能リゾート住宅

家を建てることは、夢の実現であると同時に、諦念である。

予算に限りがある多くの私たちに、とってそれは「現実」と折り合う作業であるから。

でも、うまくは言えないけれど、

「夢」であり、千万単位のお金を費やすのだから、実用性だけではなく、はつとするような非日常性や、ちよつと背伸びしたスーツに袖を通すような、心地よい緊張感も得られないものだろうか……。

有能な建築家にデザインを頼めば

「可能かも知れないが、予算とかがどれくらい我が家に情熱を注いでくれるか心配だ……。」

仕方なくモデルハウスをまわる。どれもそれなりに素敵だが、どこかで見たくつでもある。

……消去法で、ある建売りに決める。

70点、悪くはなごれと諦念する。

——果たしてそののだろうか？ 限られた予算で、only oneであり、機能的であり、リゾートでもあるような住宅を、実現することは無理なのか？

否、幸い、可能である。デザイナーズ・ストック“により”

「デザイナーズ・ストック」とは、建築家・滝本学・本誌20・25ページ参照)により、住宅の全て——建具はもとより、家具、カーテン、場合によっては食器まで——がデザインし尽くされた物件である。とくに高価な建材、素材が使われているわけではないが、贅沢で、日常性を超えた、上記の「夢」を満たしうる住宅となつていく。

何故か、世の中を、住宅を変えるのはいつも、デザイナーとコンストラクティブであるからだ。

百聞は一見にしかず。デザイナーズ・ストック・三春情報センターがオープンハウスとしている物件のうち、能見台のそれを以下紹介する。



FACADE (ファサード)

一般に不利とされる旗型敷地を逆手に取り、一歩一歩安息に近づくストーリーを想起させるエントランスデザイン。8つの角窓の、類例のない個性的なファサード。エントランスは幅広の引き戸で、広めのホールと、そこから段差がほぼ無く続くポーチが「土間」的使い勝手を実現するとともに、来客をフォーマルに迎える。

イラストは、滝本のフリーハンドによるコンセプト。建築家は、住む人の「生活のシナリオ」を想起しつつコンセプトを描いてゆく。



MIC COLLECTION (ミックコレクション)

前述の通り、建築家のディレクションにより、同じプロのインテリアコーディネーターが家具を選定。リビングのソファは、アジアリゾートテイストで、そうなるとふつうラタンか竹製になるところ、短冊にした水牛のバックスキンを格子状に編んだ素材を使用、質感とセンスが際立つ。一括インポートにより、価格もリーズナブル。

この「デザイナーズ・ストック」物件では、写真の家具(ワインスタンドも含む)、カーテン、ベッドがインクルードされるがフルファニチャーも可能。



SKY LIVING (スカイリビング)

LDKと同じ間口を持ち、引き戸ではなく、パイハンク(折れ戸)を採用。ラナイという外とLDKという内の空気を分かたず一体に。その明るさともあいまって、広々とした、きわめてエアリアルなリビングを実現。



GREAT ROOM (グレートルーム)

エントランスから階段を上ると開放感のあるグレートルーム(LDKなどのパブリックスペース)。この住宅のスイートルームと言っている。高さ3.3mの傾斜天井、ハイサイドライトが降り注ぐ「リゾート」だ。写真中央の「アジアンルーム」はいわばスイートの前室。4畳ながら、光を透すガラスブロックやポリカーボネート製の建具によって開放感があり、そのプレーンな造りによって、茶室、仏間、ゲストルームなど多様な空間となる。



MULTI CELLAR (マルチセラー)

いわゆる地下納戸だが、これが天井高の低い、ありきたりの作りだと、ストレージとしての用途しかない。この「マルチセラー」は1.7mの天井高と、7畳の広さがあり、多目的フリースペースとなる。洞窟の断熱効果により空調不要。書斎やオーディオルームとして、ワインセラーにも(広すぎるが)最適。



HOTEL VANITY (ホテルヴァニティ)

浴室が1.5坪、サニタリーも1.5坪あり、ここのみは豪邸的である。LDKを1坪2坪増やしてもそう差はないが、サニタリーなら劇的に贅沢で非凡。ポウルとカウンタートップはイタリアデザインのガラス製。住宅に、一流ホテルのヴァニティを。その心地よさを、毎日享受できる。

